

おや こ なつ とく
★★★親子で納得

ニュースな経済学

けい ざい かく
経済ジャーナリスト・内田裕子

中止しても税金使われるダム建設

国土交通省の前原誠司大臣が群馬県の「八ッ場ダム」の建設中止を発表しました。これは選挙のとき、国民との約束の一つでした。ところが、この中止発言が騒ぎになっています。前原大臣の意気どみとは裏腹に、地元、群馬県長野原町の住民が困っている様子が伝えられています。ダムはまだ完成していませんが、周辺工事は進められており、「なぜ今さら中止なのか」という声があがっています。

なぜ八ッ場ダムの建設の中止が言われているのでしょうか。八ッ場ダムは東京をはじめ利根川が流れる地域を水害から守るため、1952年に計画されました。もう57年もたっているのにダムは完成していません。地元の住民の反対運動があったから

です。ダムは川をせき止めて「人工の湖」をつくれますが、そうすると川の近くに住人は引っ越すことになると思います。でも、八ッ場ダムの建設予定地には歴史がある温泉街があり、そこで商売をしている人たちにとって商売がだめになるかならないかの問題です。また、そもそもこのダムは必要なのか、という考えも反対派にはありました。

時がたつて、「国が決めたことには逆らえない」と反対派も徐々に引っ越しをしていき、ダムのできる湖のほとりに新たな温泉街をつくることになりました。その矢先に「建設中止」となったので、「なにをいまさら」ということになっているのです。建設にかかるお金は4600億円。すでに約3200億円は使いました。いま、中止にしたら、残り約1400億円は使わずにすみます。でも、この計画には6都県が出した1985億円も使われていて、中止にしたらそのうち1460億円を返さなくてはなりません。税金のむだづかいをやめるためのダム建設中止なのに、税金を多く使うことになったら意味が



八ッ場ダム建設予定地を視察する前原国土交通大臣（中央）。後方は建設が進む橋。九月二十三、四日、群馬県長野原町で。©朝日新聞

ありませんから中止の判断はとても難しいでしょう。

でも、新政権が目指しているのは、役人が中心になって進められる「一度動き出したら止まらない公共投資（ダムや道路などにお金を使うこと）」の慣習そのものをこわすことです。ダム建設は税金のむだづかいの象徴なのです。そして、このようなダム建設予定がまだ約140もあるのです。

これは「八ッ場ダム」ひとつの問題にとどまりません。役人主導の政治からぬけ出せるかどうか、大きな問題なのだという認識が必要です。

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。